



測候所全景

油津は宮崎からバスで日南海岸伝いに南へ2時間20分、鉄道を利用しても都城から2時間20分それぞれ入りこんだところにあります。もっとも明年は日南鉄道が開通し宮崎と1時間余で結ばれることになるため便利になります。

油津はもともと港町として栄えたところで戦前はマグロ漁業の根拠地として有名でしたが、戦後は日本パルプ日南工場の製品・資材の輸送港として活況を呈しています。日本パルプ日南工場は戦後の復興ブームに乗って躍進を遂げた業界の一流会社であり、日南工場はその主力工場であります。今回55億の巨費をかけた新営設備の工事を終り、生産を倍増し、なおも発展途上にあります。油津を含む日南市の発展の原動力は、この日本パルプに負うところ大であり、10年まえ日南市として発足できたのもこのためであります。

パルプ工場ができたのは、この地方の豊富な森林資源のためですが、当地はオビ杉の産地としても有名です。旧オビ藩時代の先覚により造林されたもので、温暖多雨な風土のため生育が早く油分を多く含むため、造船弁材として好適であり、阪神方面はもとより沖縄・韓国に対しても盛んに輸出されています。

また当地の特色として観光のすばらしさを見逃がすこととはできません。青島からサボテン園・鶴戸神宮・油津

港をへて野生馬で有名な都井岬に至る110キロの海岸線は国定公園日南海岸として知られており、太平洋の荒海をバックにした原始的で荒々しい、雄大な眺めは南国特有の強烈な日光とあいまって他の追随を許すことのできないものです。特に堀切峠から眺めた広漠たる太平洋の景観は日南海岸の圧巻であります。

次に宮崎県は台風銀座といわれるように台風とは切っても切れない縁がありますが、「備えあれば憂いなし」台風能耐えられる堅固な建築法がさきごろの日向灘地帯で意外に倒壊家屋が少ないという結果となって現われ、宮崎県の建築技術の評価を高めたのですが、これは災害に備える日常の必がけの一端が現われたものです。

最後に役所について。昭和22年地元の要望で港が一目に見おろせる丘の上に建てられましたが、あいつぐ台風で倒壊のおそれが出たため、昭和27年現在地に移築しました。さらに昭和34年に測風塔が新築され、しょうしゃな建物は役所全体にスマートさをかもしだしています。業務内容は特区測候所に共通のことをやっておりますがえませんが、港をひかえているため船舶関係の問い合わせが多いことが特徴となっています。なお当所々管の油津検潮所は昭和3年開設されてより貴重な資料を残し現在も活躍を続けています。

(吉留道哉 記)



油津港の全景

☆

☆

☆

☆